

2(2) その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付けなど。(※評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

特筆すべき教育活動

1. デジタルコースウェア・ポータルサイト(DCW)の構築
全学教育・学部専門教育・大学院教育の全授業科目(約 10,000)のそれぞれについて専用のウェブページを提供し、学生が講義ノート・配布資料などの情報にインターネット経由でアクセスできる仕組み(DCW システム)を構築した。平成 20 年 4 月から稼働開始。
2. 「アドバンスト・マスマティクスコース」の開講
学部の初期段階(2~3セメスター)における意欲的な学生を対象に、数学の演習を中心としたレベルの高い少人数教育「アドバンスト・マスマティクスコース」を開設し、学生の数学の基礎力向上を実現した。
3. DVD『2007年度基礎ゼミ実践事例集』作成とウェブサイトでの公開
特色GP事業の一貫として、全学教育科目「基礎ゼミ」の優れた実践事例集をDVDに収録するとともに、ウェブサイトにおいて公開して教育内容・方法の改善の波及に努めた。
4. 東北大学高等教育フォーラムの開催
高校教諭参加の高大接続を目指す第6回高等教育フォーラム「新時代の大学教育を考える―理科実験の可能性を探る」を開催し、高校関係者57名を含む106名の参加があった。
5. 「融合型理科実験が育む自然理解と論理的思考」(平成 17 年度採択・継続)
理科実験教育室が事業遂行に対して中心的な役割を果たしている。
6. 全学「部局学生支援相談担当責任者」協議会の実施
学生相談所は、部局の学生支援およびあるいはハラスメント相談を担当する教職員の研修を継続的に行っている 18 年度に工学部の複数の系において自殺予防のための学年別の講演を集中的に行ったのに続いて、19 年度には自殺問題についてインターベンション(企図への介入)およびポストベンション(関係者への事後介入)のシステム作りのひながたとなる集中的取り組みを行った。

特筆すべき研究活動

1. FD ならびに学生支援に関する国際シンポジウム開催と成果の刊行
 文部科学省特別教育研究経費「国際連携を活かした高等教育システムの構築」プロジェクト事業の最終年度にあたり、研究大学におけるFDと学生生活支援をめぐる2回の国際シンポジウムを開催、その成果を『研究・教育のシナジーとFDの将来』(東北大学出版会)、『大学における学生相談・ハラスメント相談・キャリア支援』(東北大学出版会)として公表・刊行し、全国の大学に向け発信した。
2. 学部新入生の情報リテラシーレベルに関する調査
 平成18年度より、高等学校で教科「情報」(必修)を修めた学生が本学学士課程に入学してきた。これらの学生がどのような情報対応能力を有するかのアンケート調査を平成18年度から平成20年度まで継続して実施し、その傾向と問題点(実質的未履修の可能性)などを逐次、報告してきた。
3. 肥満学生における睡眠健診の導入
 肥満学生の増加に伴い、生活習慣病の予備群も増加している。中には授業中に過眠を伴うような睡眠呼吸障害の学生もいる。本学ではパルスオキシメータによる簡単なスクリーニング検査システムを導入し、個人面談方式の睡眠健診を行なっている。本システムの導入により、これまで治療が必要な睡眠時無呼吸症候群の学生が発見されている。

特筆すべき社会貢献活動等

1. フォーラム、セミナー等の開催
 東北地区国公立大学との連携のもとに、平成19年度 IDE 大学セミナーとして第7回高等教育フォーラム「大学教員のライフコースとは」を開催し、61名の参加があった。
2. 高大連携事業 SPP 「コスモス理科実験講座」の実施
 宮城第一女子高等学校と連携しつつ、サイエンスパートナーシッププログラム(SPP)事業をととして「コスモス理科実験講座」を開催し、高校と大学の教育的接続の事業を展開した。
3. 東北呼吸ケアフォーラム
 東北地区の医師のみならず看護師等コメディカルの方々、更には呼吸不全で悩んでおられる患者さんの参加のもとに呼吸ケアに関する研究成果の情報交換を行なった。
4. 健康科学セミナー・健康科学講演会の開催
 本学の保健管理センタースタッフのみならず近隣の大学の保健管理室勤務のスタッフを対象にしたセミナーを6回実施した。また、本学の学生、職員を対象に平成19年度は「いのちについて」の講演会を実施した。
5. 学生相談に関する情報提供等
 広島大学保健管理センターカウンセラーに対してスーパービジョンを行った。前年度に続き、独り職場のカウンセラーの支援を目標として、東北地区の大学・高専のカウンセラーのための「事例研究会」を主宰した。また、日本学生支援機構の学生支援の取り組みに、全国メンタルヘルス研究協議会本部運営委員長、同機構仙台支部による学生対応事例研究会運営委員として、貢献した。また、全国の大学・高専のハラスメント防止あるいは学生支援に関する研修会に講師として貢献した。